

コラム

みやちゃん と ご一緒体験記

Vol.38

【愛という名のバトンを繋ぐ】

北欧から帰国している友人と会いたいと思うものの、双方の意見が一致し、残念ながら会うことかなわず、電話でつもる話をするだけにしました。彼女の場合、高齢の両親がいる実家に宿泊し、しかもお二人ともまだ4回目接種を受けていないということでもナーバスになっている様子でした。しかも、イギリスに遊びにしている息子さんが熱波で疲弊しているらしい。世界的に本来ならばバケーションシーズンですが、コロナと異常気象のせいで穏やかとはいえない夏ですよ。

在宅療養患者さんを百名近く抱えるみやちゃんは、第7波にはいって連日、患者さん（陽性の方も多々）の自宅に薬を届ける日々で、薬局内にいる時間はほとんどありません。

暑さが苦手な私はひき続き引きこもり、それでも気持ちだけでも世界と繋がっていたいので、7/18の週は世界陸上をずっと観戦していました。

陸上といえば、注目を集める花形競技は400Mリレー。ここのところ日本男子チームが好成績をだしているだけに期待大、今回も楽しみにしておりました。ところが……。昨年の東京五輪につづきバトンバスがうまくいかず失格、予選敗退となってしまいました。今回は昨年の例があり、メンバーを総入れ替えしてきて臨んだだけに残念でなりません。元々、日本勢は記録的にはまだまだ世界のトップ選手たちには及びませんがバトン繋ぎという技術とチームワークで走力をカバーしメダルを獲得し栄光をつかみ取りました。チャレンジャーだからプレッシャーは感じなかったのでは？と勝手に思っていたのですが、東京五輪チームのようになってはいけない！という重圧があったのかもしれませんが、本当に残念です。

日本がダメなら、実力あるチームが堂々と栄光をつかみとるシーンを見て感動をもらいたいものです。同種目の女子決勝、100Mでメダルを独占した3選手を擁するジャマイカチームが、やはりバトンがうまくいかずアメリカチームに金メダルをもっていけました。

そして、男子決勝。本命はアメリカチームで金メダル確実といわれながら、こちらバトンがスムーズにつな

がらずカナダに敗北、銀メダルに終わりました。

一瞬の差が影響してしまう競技だけに、バトンを確実に繋ぐ（渡す）ことの難しさがわかりますよね。ともあれ、ハラハラドキドキ、スポーツのもつチカラを実感した次第です。

バトンといえば、最近、WOWOWで昨年公開された話題の日本映画「そして、バトンは渡された」を鑑賞しました。友人たちが泣いた！と口を揃えているのでチェックしていた作品で、泣くことはなかったものの心がほっこりして、モヤモヤしていたことが消えてしまうように思える良質の作品でした。

本作は作家の瀬尾まいこ氏の小説の映画化で、生涯に2人の母と3人の父をもつ優子（幼児期はみいたん）の半生が、現在と過去を交互に描きながら進んでいきます。なぜ、みいたん（天才子役の稲垣来泉ちゃんが愛らしく好演！）が3人の父をもつことになったのかというのがこの作品の核となっていて、ハチャメチャ女（みいたんの母親）と3人の生真面目男との関係も含めて、ありそうでなさそうな物語です。ネタバレになりますので未見の方のためにあらすじは省略させていただきます。

結果、結婚する優子（永野芽郁）と一緒にバージンロードを歩くのは、3番目の父（田中圭）で、式場には最初の父も2番目の父も同席し、優子が選んだパートナーにバトンをつないでいきます。

3人の父たちは、実父以外は、当然ですが血のつながりはありません。しかし彼らは俄かに娘になった娘をわが子のように慈しみ、大事に育てる常識的で愛情深い男たちです。母親の交際相手や再婚相手に虐待や性暴力をうけて生命を落としたり、助かって心にも深い傷をおわせたり、悲劇の少女たちの事件は新聞記事などでよく目にし心が痛みます。だからこそ、こんな物語に接すると心がほのぼのと感動すら覚えます。

優子の人生を左右した継母・梨花（石原さとみ）は、娘を振り回し続けた印象はぬぐえませんが、こちらも継母、つまり血縁関係はありません。しかし、この母親はすべて娘のために行動しているのです。娘を愛し守ってくれる良き父親になるだろう男、娘の人生を導いてくれる力をもった男を選び——男性たちに愛情をもてなくても娘のためになるならそれでいいのです。立派ではありませんか！

つまるところ、血の繋がりがすべてではなく、愛情をもって接すると生物学的親子にも劣らないすばらしい親子関係を構築することができるということですね。血縁をしっかりと継承していくことはもちろん大事ですが、愛情が希薄だったらどこかの時点で破綻し、悲しく愚かな事件につながっていくのかもしれない。

残念な結果の終わったりレーチームもそうですが、技術を繋ぐ → チームメイトなど一緒にやっている人との和をつなぐ → 人の失敗も成功も受け入れる寛容さを繋ぐ——すなわち、様々な愛という名のバトンを繋いでゆく。そうすれば、悲しみよりも喜びの方が多く、涙よりも笑顔があふれる人生になることでしょう。

★「そして、バトンは渡された」

<https://eiga.com/movie/94847/>